

酸ヶ湯温泉

Sukayu Onsen
(青森県青森市)



東北旅行5日目の本日は、奥入瀬溪流で森林浴を楽しみ、十和田湖畔でヒメマスの刺身定食を食し、八甲田山にある酸ヶ湯（すかゆ）温泉へやってきた。八甲田山にやってきたのはこれで3回目であるが、八甲田山で最も有名な温泉である酸ヶ湯温泉へやってきたのは実はこれが初めてである。

酸ヶ湯温泉の歴史は300年前にさかのぼり、江戸時代には湯治客、山菜採りの客、猟師らで賑わっていたという。さすがに歴史が長いだけあって、風呂も相当古い。今では登山者、旅行者の他、バックカントリーを楽しむスキーヤー、スノーボーダーなども訪れる温泉の聖地である。

まずは男女別になっている玉の湯へ。無料で使用できる貴重品ロッカーは脱衣室の外に24個ある。コロナ対策のため、スリッパを入口に置いてあるビニール袋に入れ、脱衣室内まで持ち込むルールになっている。脱いだものを入れる籠を収めるべき棚は36個あるが、約3/4が使用禁止になっており、籠は8個しかない。ロッカーは100円硬貨が戻ってこないタイプが5個ある。脱衣室はあまり広くない。

浴室もあまり広くない。内装は床以外はすべて木でできており、いかにも日本の温泉風の造りだ。洗い場は7か所あり、シャワーブースは1か所あり、浴槽が1個あるのみだ。洗い場にはオレンジローズのリンスイシャンプーとボディソープが完備。

浴槽は定員10人程度。湯は真っ白。湯温は夕方は適温かややぬるめであったが、夜はやや熱めになっていた。

ここで酸ヶ湯温泉の入り方であるが、最初は無理せず短時間で済ませるのが良いそうだ。なぜならば、酸ヶ湯と呼ばれるほどの湯である。すなわち、恐ろしく酸性が強いのである。温泉のスペックを見てみると、pH がなんと 1.5。これでは体に悪いのではとってしまうほどだ。従い、体に合わない人もいるので、初めての人は慎重になるべきである。

次に向かったのが混浴の千人風呂である。その名の通り、千人は入れるという巨大な内風呂である。混浴であるが、脱衣室は男女別。脱衣室には脱いだものを入れる棚が 100 個以上あるが、ここもコロナ対策で約 3/4 は使用禁止になっている。ロッカーは 10 個あるが、100 円硬貨が戻ってこないタイプだ。これとは別に脱衣室の外に貴重品ロッカーが 100 個あり、無料で使用できる。

浴室はとにかく広い。女性用の脱衣室から浴室へのアプローチは、仕切り壁が設けられ、浴室の途中までその壁が伸びている。従い、混浴とは言いつものの、女性はほとんど男性に見られることなく入浴が可能である。しかし、望めば、その壁がなくなる場所まで行き、男性のいる場所近くまでやってくることもできる。とは言いつものの、明確に男女の境界線が設けられ、互いにそれを越境してはならないルールとなっている。幸か不幸か、入浴中に浴室内に女性が現れることはなかった。

ところで、「混浴を守る会」という会が存在し、日本独自の混浴という伝統文化を守ろうと活動しており、混浴の作法を 3 か条にまとめているので、ここに紹介しておこう。

第一条 男性入浴者は女性入浴者を好奇の目で見るべからず

第二条 女性入浴者は男性入浴者を好奇の目でみるべからず

第三条 混浴は老若男女を問わず和を尊び 大らかに豊かな入浴の姿を最高と為すべし

さて、千人風呂という名の風呂であるが、定員はせいぜい 300 人ではないだろうかと思う。そもそも脱衣室の棚が男性側だけで 100 個しかないのに、千人も入浴できるはずはない。

酸ヶ湯温泉の源泉は実は 4 種類ある。鹿の湯、冷の湯、熱の湯、四分六分の湯がそれらだ。このうち、鹿の湯と冷の湯はブレンドされ、玉の湯と千人風呂に供されている。しかし、千人風呂ではかけ湯としてしか使われていない。従い、千人風呂のメインは熱の湯と四分六分の湯である。いずれも湯の色は真っ白だ。それぞれ大きな浴槽になっており、前者が脱衣室から見て手前側だ。名称だけ聞くと、前者は相当熱そうであるが、実は全く熱くない。むしろ、ややぬるめであって、後者が適温である。実は、前者はポカポカが長時間持続するからこの名がついており、後者は前者の 40~60%しかポカポカが持続しないのだそうだ。

浴槽以外には「湯籠」と書かれた 3 人分の打たせ湯がある。肩に打たせ湯を当てると丁度良い。尚、千人風呂の内装は床も含めてすべてが木である。

ちなみに、酸ヶ湯温泉の湯は酸性含二酸化炭素・鉄・硫黄-アルミニウム-硫酸塩・塩化物泉（硫化水素型）（低張性酸性高温泉）であり、神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、慢性消化器病、痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、きりぎり、やけど、慢性皮膚病、動脈硬化症、虚弱児童、慢性婦人病、糖尿病、高血圧症などに効くという。

尚、館内のあちらこちらに「風呂は撮影禁止」と書かれていたので、撮影は遠慮しておいた。あしからず、どうしても写真が見たい方は、酸ヶ湯温泉の公式ホームページをチェックしてほしい。

酸ヶ湯温泉。一度は訪れたい、青森の名湯である。明日は、恐山を訪問し、下北半島の北端まで行ってみようと思う。

取材レポート

DATA

名称	酸ヶ湯温泉
所在地	青森県青森市荒川南荒川山国有林酸湯湯沢 50 番地
電話	017-738-6400
営業時間	千人風呂（混浴） 日帰り 7:00~18:00 宿泊者 24 時間 8:00~9:00、20:00~21:00 は女性専用
	玉の湯（男女別） 日帰り 9:00~17:00 宿泊者 1:00~3:00 以外
定休日	無休
入浴料	大人 1,000 円、小人（7 歳~12 歳）500 円 宿泊者は無料
サウナ	なし
サウナ内のテレビ	なし
取材日	2020 年某月某日
取材	銭湯愛好会東京支部
最寄りのスキー場	八甲田山